

国調の重さ階段しかと踏み

15日から、いよいよ国勢調査関係書類を市町村から運搬する。4班にわかれ丸通のトラックに統計課の書類を積み込んで張り切つて出かける。

これらの車が荷物を満載して県庁正面玄関に着くと、ここからが大へん。何郡の荷物到着しましたののこりについてそれぞれ受持係員が受けとりに出かける。3階の統計課までこのギツシリと書類の詰まつたトラックを運び上げるのは大仕事、日頃あまり感じない階段の重さを今更ながら長いなあと感じる。

山と積む調査書類にわく斗志

市町村からの関係書類は統計課裏、表の廊下に各班ごとに整理され積み重ねられる。

明日からこの山を崩す審査の作業が始まる。課員の斗志いよいよ旺ん、明日の闘いを誓う。

慎重に調査書類の荷を開ける

いよいよ本(日10月16日土曜日)から日通して審査開始、1つの村、1つの町と町村づつ片付けていくことになる。調査票の箱を開けて市町村要計表と調査票、調査票について調査票をチェックしながら確認して審査に入る。

あかしいわなどところこそ

アルバイト

審査は、まづ世帯名簿の集計から、男女別とそれぞれ検算、この計算が違つていようととの作業が大変、調査票の男女別人員を一世帯ごとに突き合わせ、さらに個票枚数をも調べる。いづれも間違つていなければならない。この審査のためにアルバイトは60人、統計課に入り切れないので、会場に国保課を借り受け2カ所にわかれての審査、アルバイトはそれぞれの係に応じて配属される。この可愛い彼女達、おしゃべりやか、合つたわ、おかしいわなどと、おかげでこちらも大いに若返り、質問にテンテコ舞を演じた。

鉛筆の跡が濃いやら薄いやら

調査票は、鉛筆で各世帯人員1人1枚づつ所定のカラムにシールがつけられる。これが光学読取装置にかけられる。鉛筆が濃い場合は良いとして、あまり薄かつたり

所定のカ所からズレているような場合が問題、何しろ始めてのことでその加減がわからない。あれやこれや、まあこの程度ならということで審査は進められていく。

数えても個票の数が突き合わず

調査個票の通し番号の最終番号と表紙の枚数が一致するのが当然、さらに世帯人員の合計とも一致してこの調査区の人員がわかるのであるが、いくら数えても枚数が一致しない調査区に出会う、表紙の枚数と最終番号は合っているが枚数が足りない。こうなると調査個票を世帯ごとに調査票の世帯人員と突き合わせなければならぬ。結局個票が1枚足りなかつたなどの事実が出てくるわけで、個票の審査にはいろいろと悩まされることが多い。

数字追う眼がチラチラ

夜なべの灯

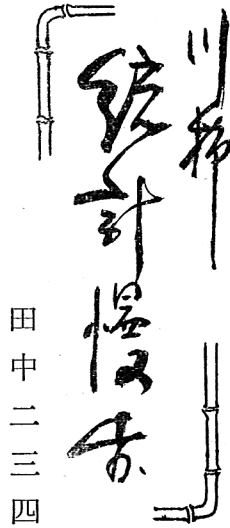
連日連夜の審査にちよつと疲れ気味、特に年輩の方には電燈の光で見る細かい活字がにが手、7が9に見えたり、8が3に見えたりしてきて眼鏡を外して目をこすつてみたりなかなか苦勞が多い、そこいいくとやつぱり若さは尊いものであると感じられた。

大声も出てきて審査真最中

各係の分担する市町村が着々と片づいていく、だんだんと努力のあとが現われて調査書類が減つてくると先が楽しみ、競争ではないのだが各係員達に自分の受持を早くやつてしまおうという競争意識が湧いてくるのも人情、あれやこれやで戦場の如く、つい大声でどなつてしまうこともあり、そろそろ頭に来たかなどと陰口を叩かれるのもこの頃である。

調査票積み出す朝の空が澄み

10月22日夜、日立市の審査を最後に昭和40年国勢調査も無事完了、23日の朝が訪れる。大任を果たした後の充実感と空虚感、それぞれの複雑な気持のうちに7トン車三台に満載した調査書類は全員の拍子に送られ一路統計局に向う、……世帯名簿の県総数は2,056,136人となる。調査票は全国で5番目に進達を終る。もちろん200万人以上の都府県ではトップ。9千余の調査員、各市町村の係員、県係員とそれぞれ各分野の職責を全うして一致協力したその努力が輝やかな実績の表われとなる。調査関係者に厚く感謝の意をささげたい。



(14)

統計の交差

文化の日に、秋の叙勲

——本県では石島・大江氏に——



大江氏

政府は、10月29日の閣議で秋の叙勲と功労賜杯を受る人々を決め、11月3日文化の日に発令された。

受章者の総数は、1,785名である。今回の選考の特色は苦勞の割に人目につかない領域で報われることの少ない人々、たとえば、国勢調査等の統計調査に従事した人、辺地教育や助産婦、保母、燈台守、看護婦などの分野の功勞者を積極的にとりあげている。

統計関係で今回の受章の榮に浴した人のうち、本県からはさきに監授褒章受章者の水戸市木葉下町の石島源次郎氏(73才)、日立市小木津町の大江熊太郎氏の二人が加わっており、それぞれ勲六等瑞宝章が贈られた。これら受章者たちはいずれも大正9年第1回国勢調査以来統計

調査員として継続従事した他各種の統計調査に貢献し、功績顕著な人々である。

この伝達式が、11月11日総理府において安井総理府総務長官より行なわれた後、皇居において陛下に拝賜を賜わった。

国勢調査等の統計調査員の叙勲は、昨年秋にはじめて、今回で3度目であるが、大正9年第1回国調から日まで40年の永きにわたり、国勢調査をはじめ各種調査に尽力された多年の勞苦がここに報いられたものがある。

昭和40年の国勢調査も無事に終つて、この機会に報されたことは、本県統計関係者とともに喜びにたえたものがある。



石島氏

国調全国5位で総理府入り

全县をあげて行つた国勢調査、特に調査員の方々や市町村の方々のご尽力によりまして、その結果はまことに迅速、正確に出来ましたことを有難く御礼を申しあげます。お蔭で10月23日県全部を取りまとめ、貨物自動車3台に満載総理府統計局に送達いたしました。到着順は1位は徳島県でしたが本県は第5位の上位で、関東ではトップで総理府の門をくぐることができました。関係者の皆様厚く感謝いたします。

調査員の余技

水戸市二の町の国勢調査の調査員の山本弘さんは、第10回国勢調査に対する所感を日頃たしなんでいる七言絶句に託して総理府統計局へ送つたが、水戸人らしい気風にあふれ立派な作品である。ご紹介すると、

「想国立志従調査、正確統計求国家、奮然奔走廻区域、夢見梅都隆盛姿」

国を想い、志を立て調査に従う、正確なる統計国家が求む、奮然として奔走し区域を廻る、夢に見る梅都隆盛の姿。

都市統計事務協議会

都市統計事務協議会が去る12月10日水戸市において開かれた。議題は41年度の統計事業、人口異動報告書、産業基本調査、工業統計調査、都市統計書等についてであった。

全国統計教育研究大会

去る11月11、12の両日、島根県松江市において開かれ、1,000人が参加し、第8回中国地区統計教育研究大会が開かれおこなわれた。

統計的なものの見方、考え方を育てる統計教育の重要性が認識され、その普及、深化のため重要な研究と実践の成果が発表され、大きな成果をおさめた。本県からも教育庁、県庁、小中校代表など関係者が出席した。鹿島郡旭中学校田口教諭が日頃研究の成果について発表された。

地方統計職員業務研修会

この研修会は、主として市町村において統計業務に従事する職員の資質の向上、技術の研さんを目的に行

主催で行なわれる。日時、場所等は下記のとおり
 ます。関係者の参加を希望いたします。

記

- 第1会場 12月6日～9日（4日間）
- 第2会場 12月13日～16日（4日間）
- 第1会場 水戸市大坂町284 水府荘
- 第2会場 “ “

労働力調査特別調査の実施

統計局所管の、労働力調査特別調査を実施し
 10月分労働力調査対象のうち、その4分の1
 全国約6千世帯、本県では62世帯に常住する
 上のもの218名について行なつた。

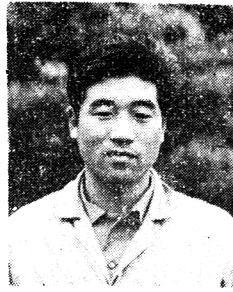
労働力調査は月末1週間の就業状態を調べてい
 別調査では平常の就業状況を調べて、労働力調
 査を補うとともに、転職、離職などの就業異動の
 原因を明らかにするために行なわたものである。

1位は5人ちがい

県人口懸賞募集結果

昭和40年国勢調査の広報の一環として行なつた、茨城
 県人口懸賞募集は去る9月30日締めきつたが、その結
 果応募総数で3,402通の多きに達し、応募者は全県に
 わたっている。応募総数のうち最も多いのが208万台で
 茨城が最盛である。

当選者は総理府から発表された本県人口比数 205万6、
 137人に最も近いものから順次等位を決定し、下記のもの
 がきまりました。すでに賞金も各人にそれぞれ送られま
 した。



1位の塩畑忠さん

昭和40年国勢調査人口懸
 賞募集に5人違いで、見事
 に1位に当選した高萩市の
 塩畑忠さんは市内にある日
 本化工紙株式会社（元高萩
 パルプ）高萩工場に勤めて
 いる、独身の社員さん。37
 年に地元の高校をでるとすぐ現在の工場に就職、クラフ
 トやアート紙を白くする晒し課漂白係に働いている。父
 又一さんは長年家業の鍛冶業を営んでおり、兄弟は4
 人で長男。思いがけない知らせに塩畑さんはこう語つて
 いる。会社の社内報で人口募集を知り、出した1枚が多
 数の中から1位に当選するなんてこんなうれしいことは
 ありません、通知をうけた日は、家中で祖母の1周忌法
 要を営んでいたが近所の人から新聞をみせられびつくり
 しました。正式な通知はすぐ到着しましたが、いたたく
 お金は歳末を控え困つた人にその中から少しでも差しあ
 げたいと思つていましてと語っている。

昭和40年国勢調査人口懸賞募集当選者

順位	賞金	人口 募数	当選者氏名	住 所	職 業	年令
1位	10,000	2,056,142	塩 畑 忠	高萩市安良川148	会社員	23
2位	5,000	2,056,082	今 瀬 清	那珂郡瓜連町	教 員	38
3位	〃	2,056,156	古 谷 明	水海道市大輪町	印 刷	23
4位	2,000	2,056,013	伊 藤 嶺 子	東茨城郡内原町鯉洲大和	農 業	20
5位	〃	2,056,193	飯 塚 泉	笠間市下市毛742	公務員	48
6位	〃	2,056,223	西 宮 幸 男	日立市油繩子町鮎川台9アパート1の3	会社員	32
7位	〃	2,056,250	佐 藤 敏 子	笠間市稲田1909の1	主 婦	—
8位	1,000	2,055,800	鈴 木 二 郎	久慈郡水府村町田	農 業	—
9位	〃	2,055,819	加 納 利 江	岩間町押辺870	事務員	18
10位	〃	2,056,296	加 納 く に	岩間町押辺870	農 業	53
11位	〃	2,055,924	椎 名 正 敏	日立市田尻町天神前市営アパートC20号	—	—
12位	〃	2,056,000	中 村 稔	水戸市平須町1822の25E20号	小学生	10
13位	〃	2,056,000	川 上 優	水戸市裡四丁目1297	公務員	18
14位	〃	2,056,326	塚 崎 さくの	筑波郡伊奈村小張	会社員	44
15位	〃	2,056,450	小 林 房 枝	水戸市備前町816	薬剤師	48

近 着 統 計 資 料 案 内

図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者	図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者
産業・経済			群馬県の工業	39年	群馬県
繊維統計年報	39年	通商産業省	工業統計調査結果報告	"	長崎県
機械統計年報	"	"	三重県勢要覧	40年	三重県
東京通産年報	"	東京通産産業局	家計調査結果	39年	北海道
統計年報	"	関東電気通信局	主要耐久消費財調査結果	"	"
事業所統計調査年報(全国)	38年	総理府統計局	鋳工業生産の動き	"	三重県
商業統計速報	39年	通商産業省	賃金と労働時間と雇用	"	神奈川県
通商産業統計要覧	"	"	栃木県のすがた	"	栃木県
鋳工業指数年報	40年	"	工業用水調査結果報告	"	兵庫県
工業統計速報	39年	"	県民所得	"	新潟県
木材需給報告書	39年	農林省統計調査部	工業統計調査結果報告	"	三重県
林業生産統計年報	"	"	三重の工業	"	三重県
社会・労働			工業統計	"	三重県
鉄道要覧	39年	水戸鉄道管理局	個人企業経済調査結果	"	三重県
鉄道統計年報	"	日本国有鉄道	市町村民所得推計結果	"	徳島県
国民生活白書	"	経済企画庁	住宅統計調査報告	38年	長野県
鉄道車両生産動態統計年報	"	運輸省	長野県の工業	39年	高知県
労働力調査報告	"	総理府統計局	高知県統計書	"	東京都
労働統計年報	"	労働省	東京都工業指数	"	商業統計調査結果
毎勤統計調査総合報告書	40年	"	商業統計調査報告	"	統計資料
" 労災特別調査報告書	39年	"	工業統計調査結果の概況	"	茨城県
家計調査年報	39年	総理府統計局	国民健康保険事業状況	39年	茨城県
教育・文化			教育要覧	40年	茨城県
文部統計速報	40年	文部省	茨城県税務統計書	39年	茨城県
学校保健統計調査報告書	39年	"	漁船統計表	39年	茨城県
学校基本調査報告書	"	"	父兄負担の教育費	"	茨城県
各道府県			医療施設等調査結果	"	茨城県
市町村民所得統計	37年	広島県	開拓地営農実績調査	"	茨城県
京都府統計書	38年	京都府	労働組合基本調査結果	40年	茨城県
大阪府統計年鑑	39年	大阪府	建築行政概要	"	茨城県
横浜市統計書	40年	横浜市	茨城県土木概要	40年	茨城県
神奈川県の統計	61年~63年	神奈川県	鋳工業生産動向	39年	茨城県
工業統計調査結果	39年	新潟県	茨城教育便覧	40年版	茨城県
主要経済指標	40年8月	群馬県	事業概要	"	茨城県
県経済の構造	40年9月	福島県			
県民所得推計結果	38年	埼玉県			
山口県勢要覧	40年	山口県			
商業調査結果報告	39年	宮城県			

大久保今輔(5)

前田香徑

文政元年(1818)老中に就任、將軍家齋の
前後5回の加増によつて5万石の大名に列し
藩路政治を行なつた人物であるが、彼の老
文政元年は今輔が62才で、老中水野へ音物を
の企業を許可して貰うほどの財力をすでに積
30才で田沼意次に取り入り、特権営業の間屋
したかどうかは疑問である。しかし、特権商人
の利益を保護する政治の裏面を知り尽くしている彼
は青年期から心に燃えさかり、その機会をねら
に相違ない。

安永8年、23才のとき俳優瀬川菊之丞の衣裳番
ことは、「甲子夜話」も載せているが

主と呼ぶ者の中、上総屋今助と云ふは、人の
きなり、予も久しく其名を聞く、此男始めは
て瀬川菊之丞の衣裳番なりしが云々」

一文を見ると、彼が銀主の店を開業したのは30
あつたかもしれない。常陸生れの彼が、上総屋
は判然しないが、彼の埋葬された本願寺の
現在世田ヶ谷区松原町2丁目)の墓地に「上
之墓」と刻んだ小さな墓石の現存するのを見る
上総屋とは何か浅からぬ関係のあつたことが
もつである。

江戸で細井氏某の女を娶り一女を生んだが、男
あつた。彼が晩年、江戸市中に10数軒の風呂屋を
営したことや浅草榊原一带の髪結床の営業権を
したことなどは、老来その利権慾のいよいよ旺盛
ことを物語るものである。

14才で江戸に出た彼は、少年時代に学問を
も長もなかつたろうし、物質慾一途の生活を続け
人間としては、書を読み、文を書き、要路の人と
ささかもひけをとらなかつた晩年の今輔の才能
あつてよいだろう。

御庭奉行関十兵衛信正の推挙で、五人扶持の輕
七分に取立てられたのは、文化14年(1817)、
その前年9月第7代藩主武公(治紀)は他界
代哀公(齋修)が襲封した。関十兵衛は安永6
代文公(治保)以来江戸家老をつとめた榊原新左
(淡路守)の股肱として活躍し、藩政は殆んど
一系によつて左右されていたのである。榊原は明和

8年(1771)文公に召出され、小姓頭を勤めて以来、用
人見習、書院番頭、大寄合頭、城代を歴任、文政元年
(1818)大老に昇進、千三百石を食み、藩政は事実上彼
の支配下に行われていた。

その間に藩の財政は極度に逼迫し、江戸家老の才覚は
専ら、その財政難をどう処置してゆくかにあつた。「水
戸歴世譚」に、

「今輔江戸の御石場に於て交易致度願濟、煙油紙其外
品々の交易あり、一ケ年千兩上納して今助の得分1日
に付莫大なりと云へり、御石場の内庭に小屋ありて交
易す」

とあるが、今輔の上納する年千兩は藩にとつて財政難
を救う一助になつたであらうし、江戸詰の重臣たちも、そ
れによつて多分の余徳にありついたことは想像に難くない。
「御石場」は伊豆国産の石材集荷所で当時水戸家は
江戸にその土地を専有していた。

哀公(齋修)の襲封は文化13年の秋で20歳の青年藩主
政務は江戸家老が一切きりもりしていたから今輔は十兵
衛の斡旋で淡路守と接近するには好都合だつた。

「水府系纂」に「文化14年、御内用向の勤務を以て5
人扶持を賜ふ」とあるのは、彼が国産の間屋株の権利を
得て年千兩を上納したことを指して得ると解される。

哀公は襲封の前年、將軍家齋の女峰姫を夫人に迎えた
が子福者の家齋には53人の子女があつた。峰姫はその13
番目の子であるが、藩の財政的窮乏は姫の入興によつて
多少緩和された。というのは幕府から峰姫の化粧料とい
う名目で、毎年一万兩の包み金が下げ渡されることにな
つたからである。この化粧料を藩政に流用することを、
「お仕方立直し」と称したが、そのころ藩の勘定方に
「越しもの」というテクニクがあつた。それは年度予
算の乗余金を指し、勘定奉行は一年の歳入歳出を計算し
差引金額に余分があれば家老へ報告して翌年分へ繰入れ
ることである。ところがこの時代になると、「越しもの」
はないばかりか、年々支出は増す一方で、赤字財政
が続いた。こうしたときに幕府から下附される一万兩が
藩の勝手向きの困窮を救う一助になつたことは勿論である。
哀公と峰姫の結婚に幕府と水戸藩との間に立つて百
方斡旋したのは定府城代榊原淡路守であり、その配下の
先手間心頭(兼務お庭奉行)関十兵衛であつた。